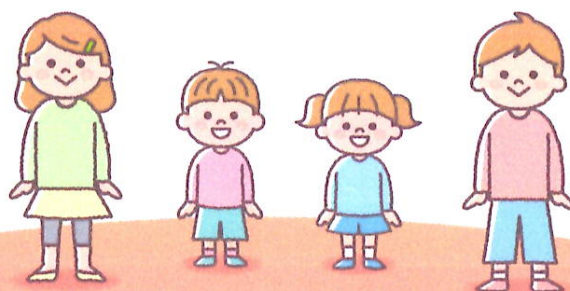
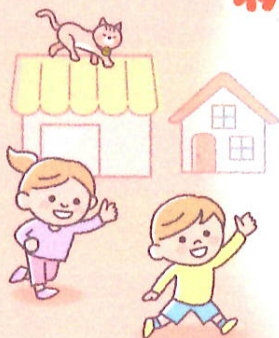


第2弾

5歳から11歳のお子様と
保護者の方へ



新型コロナワクチン接種 についてのお知らせ



新型コロナワクチンのオミクロン株への効果や
国内外の新たな情報についてお知らせします。

第1弾の情報についてはこちらをご参照ください→



**国内の新型コロナ感染者のうち
子どもの感染者数は多い状況が続いています。**

■ 人口10万あたりの新規陽性者数(※)
(※) 10/30~11/5の7日間累積

◎使用するワクチン

ファイザー社の5~11歳用のワクチンを使用します。子ども用のワクチンです(※)。
初回接種として、**3週間の間隔**をあけて、**2回接種**します。その後、**5か月以上間隔**をあけて**追加接種(3回目)**を受けられます。

(※)ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。

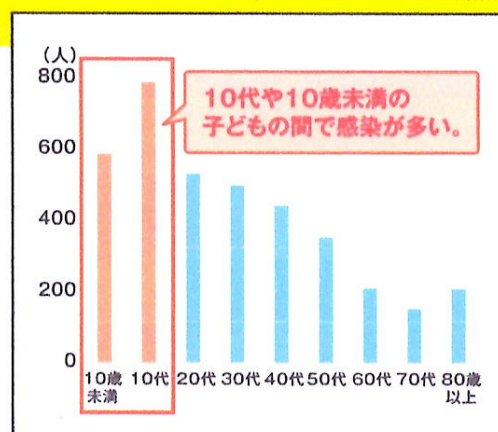


◎接種の対象

- 5歳から11歳の方
- 特に、慢性呼吸器疾患、先天性心疾患など、重症化リスクの高い基礎疾患(※)を有するお子様は接種をおすすめしています。接種にあたっては、あらかじめかかりつけ医などによく相談してください。

(※)日本小児科学会では、新型コロナの重症化リスクが高い疾患の一覧等を公表しています。

日本小児科学会「新型コロナウイルス関連情報」→



出典:新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード



新型コロナワクチンの効果

Q1. 新型コロナワクチンは、どんな効果がありますか？

また、今流行しているオミクロン株にも効果がありますか？

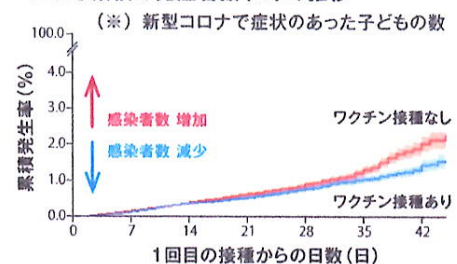
- A. 新型コロナワクチンを受けることで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなります。また、今流行しているオミクロン株にも有効であることが報告されています。

ワクチンを受けると、体の中で新型コロナと戦う仕組み(免疫)ができます。ウイルスが体に入ってきた時に、すぐ戦える準備ができますので、新型コロナの症状が出にくくなります。

オミクロン株流行下での効果として、初回接種(1・2回接種)を完了すると中等度の発症予防効果や80%程度の入院予防効果があることなどが海外で報告されています。

出典：第36回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会より

■ 5～11歳の小児におけるワクチン接種の有無による累積の発症者数(※)の推移



出典：Cohen-Stavi CJ, Magen O, Barda N, et al. BNT162b2 Vaccine Effectiveness against Omicron in Children 5 to 11 Years of Age. N Engl J Med. 2022;387(3):227-236.

Q2. 新型コロナにかかったことがある子どもも、ワクチンを打った方がよいのでしょうか？

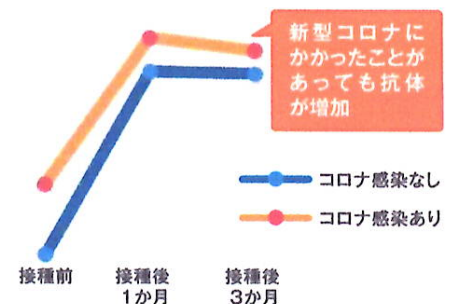
- A. 新型コロナにかかったことがあっても、ワクチン接種により抗体が作られることで、再び新型コロナに感染しても症状が出にくくなる効果が期待できます。

日本国内で行われた研究によると、5～11歳の子どもに対してワクチンを接種した後の抗体の量を比較すると、感染したことがあるかどうかに関わらず、血液中の抗体の量が増加することが分かりました。

この結果から、感染により得られた抗体は時間が経つと低下しますが、ワクチン接種により再び抗体が増加することで、新型コロナに感染しても症状が出にくくなる効果が期待できると考えられます。

出典：第88回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会より

■ ワクチン接種による抗体の変化(イメージ)



(※) 縦軸は対数目盛

(※) ワクチンを接種後3か月の時点で、コロナへの感染の有無により、抗体の値の変化を評価したもの。国内の56人の子ども(5～11歳)を対象

新型コロナワクチンの安全性

Q3. ワクチン接種後の心筋炎など、日本や海外において、ワクチンの安全性に関する最近の状況はどのようなになっているのでしょうか？

- A. 国内外の報告によると、5歳から11歳男子における心筋炎が報告される割合は比較的低いとされています。日本におけるワクチン接種の安全性情報について、国の審議会でも継続して確認を続けており、現時点では大きな懸念はないとされています。

子どもでも、ワクチン接種後まれに軽症の心筋炎を発症した例が国内外で報告されていますが、5～11歳における発症の割合は比較的低いとされています。日本の審議会では、子どもに対するワクチン接種の開始以降の報告において、心筋炎の報告数は低い(2022年10月9日までの集計で、100万回接種あたり0.6件(1回目接種))状況が続いており、重大な懸念はないとされています。

ワクチン接種後4日程度の間にお子様に胸の痛み、動悸、息切れ、むくみなどの症状がみられた場合は、速やかに医療機関を受診して、ワクチンを受けたことを伝えてください。なお、心筋炎と診断された場合は、一般的には入院が必要となりますが、多くは安静によって自然回復します。

出典：第88回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会より

基本的な情報や相談窓口等
についてはこちら(第1弾)→



3回目接種も受けられます。
詳しくはこちら→



乳幼児・小児のワクチン接種に関する基本情報

接種対象

乳幼児（6か月～4歳）

小児（5～11歳）

国では、特に、慢性呼吸器疾患、先天性心疾患など、重症化リスクの高い基礎疾患を有する方に接種を勧めています。（あらかじめかかりつけ医等とよく相談してください。）

使用するワクチン

ファイザー社の小児用ワクチン

（成分量は12歳以上のワクチンの10分の1）

1回目の接種時に4歳だったお子様が、3回目の接種時までに5歳の誕生日を迎えた場合、3回目接種にも1回目と同じ乳幼児（6か月～4歳）用ワクチンを使用します。

ファイザー社の小児用ワクチン

（成分量は12歳以上のワクチンの3分の1）

1回目の接種時に11歳だったお子様が、2回目接種時までに12歳の誕生日を迎えた場合は、2回目接種も1回目と同じ小児用ワクチンを使用します。

初回接種

初回接種 3回

（1回目と2回目の接種間隔は3週間）

（2回目接種完了日から8週間）

1回目の接種からの間隔が3週間を超えた場合または2回目の接種からの間隔が8週間を超えた場合は、できるだけ速やかに2回目または3回目の接種を受けてください。

初回接種 2回

（1回目と2回目の接種間隔は3週間）

1回目の接種から間隔が3週間を超えた場合、1回目から受け直す必要はありません。できるだけ速やかに2回目の接種を受けていただくことをお勧めします。

追加接種

設定されていません。

追加接種（3回目）と初回接種の接種間隔は5ヶ月です。

接種を受ける際の費用

全額公費で接種を行うため、**無料で接種**できます。（令和5年3月31日まで）

接種が受けられる場所

医療機関や接種会場は、各市町村からの案内文書、ホームページや広報、接種総合サイト「コロナワクチンナビ」などでご確認ください。 **コロナワクチンナビ** <https://v-sys.mhlw.go.jp/>

ワクチン接種の必要性

乳幼児においても重症例が確認されており、基礎疾患がない乳幼児でも死亡する例があります。有効性や安全性、感染状況を踏まえ、乳幼児を対象にワクチン接種を進めることとされました。

小児においても中等症や重症例が確認されており、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされています。

ワクチンの副反応

接種部位の痛みや倦怠感、頭痛、発熱等、様々な症状が確認されていますが、ほとんどが軽度又は中等度であり回復していること、現時点で得られている情報からは、安全性に重大な懸念は認められていないと判断されています。

接種を受ける際の保護者の同意

新型コロナワクチンの接種を受けることは強制ではありません。 予防接種の効果と副反応のリスクの双方についてしっかり情報提供が行われた上で、接種を受ける方の同意がある場合に限り、自らの意思で接種を受けていただいています。**16歳未満の方の場合は、原則、保護者（親権者または後見人）の同伴と予診票への保護者の署名が必要で、保護者の同意なく接種が行われることはありません。**